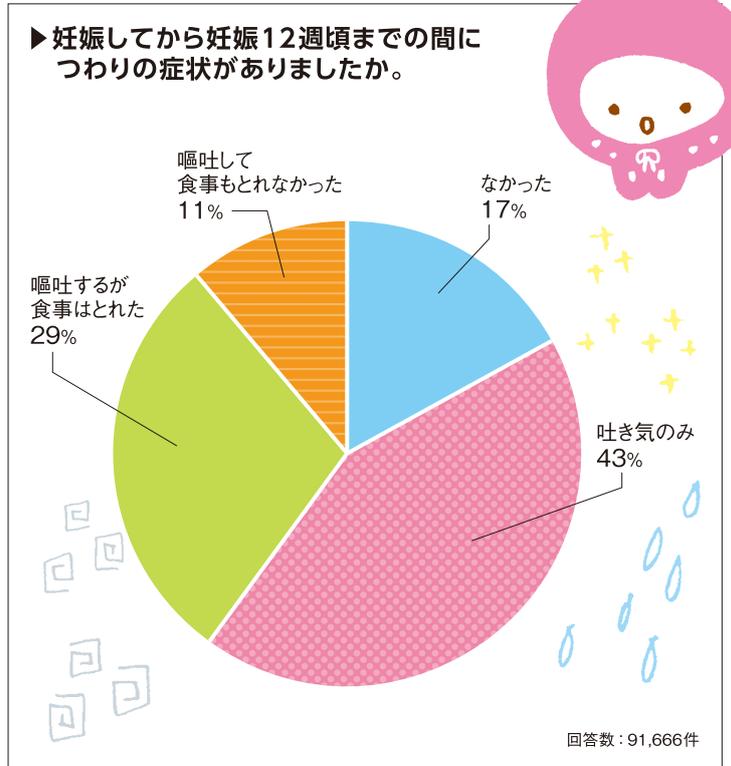


『胎児性別と単胎・多胎におけるつわりの重症度』より

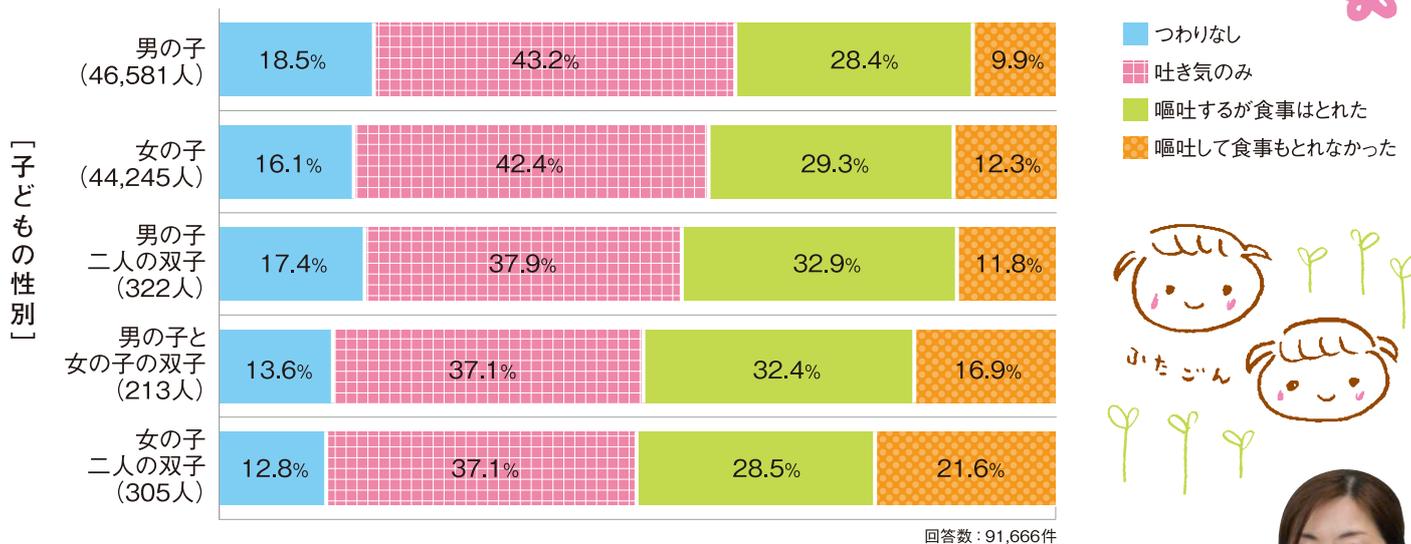
つわりの程度は子どもの性別と関係がある??

高知ユニットセンターの研究員、満田直美先生が妊娠中のつわりの程度と子どもの性別との関連について、エコチル調査のデータを用いた論文を発表しました。

妊娠中に回答していただいた「妊娠してから妊娠12週頃までの間につわりの症状はありましたか。」という質問に対する「なかった」「嘔気のみ」「嘔吐するが食事はとれた」「嘔吐して食事もとれなかった」という4つの選択肢のうち、「嘔吐して食事もとれなかった」と回答した人は、女の子を妊娠中のお母さんに多く、中でも女の子二人の双子を妊娠中のお母さんが「嘔吐して食事もとれなかった」と回答している割合が最も高いことがわかりました。つわりの症状の程度には個人差が大きく、つわりが起きるメカニズムについてはまだ不明な点がたくさんありますが、今回の結果から子どもの性別もつわりの程度に影響していると考えられます。みなさんはどうでしたか？



▶つわりの程度と子どもの性別との関連



2000年前に古代ギリシアの医師ヒポクラテスは、「女の子を宿すと母親の顔が青白くなり、男の子を宿すと健康な顔をする」と述べていたそうです。今回の調査結果を言い当てているようで興味深いですね。昔の人はつわりの程度で赤ちゃんの性別を予測していたのかもしれないね。

満田 直美先生
高知大学
医学部附属病院
小児科医師

